

児童の放課後生活の充実に 向けた活動プログラムの開発

最終更新日：2016年4月28日

【プロジェクト代表者】
家政教育講座
教授
鈴木 佐代

キーワード

児童 放課後 住教育 消費者教育 情報教育 活動プログラム

プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

少子化や共働き家庭の増加、家庭や地域における子育て力の低下、子どもの安全を脅かす犯罪やトラブルの増加など、子どもと家庭を取り巻く環境が大きく変化するなかで、留守家庭児童に放課後の適切な遊びや生活の場を提供する放課後児童クラブ（いわゆる学童保育所）の重要性が増しています。

2015年4月からは、児童福祉法の改正により、放課後児童クラブの対象年齢が10歳までから6年生にまで引き上げられ、低学年児童から高学年児童までが安心・安全に過ごし、また発達段階に応じた興味・関心に応えることができる、放課後の生活拠点づくりが必要となっています。

本プロジェクトでは、児童の放課後生活をより充実させるために、子どもを取り巻く現代的な課題に則した、生活に関わる体験的な活動プログラムを開発・実践しました。具体的には、小学生が日常生活の中のさまざまな音に興味を持つことを目的とした「音当てクイズ」、騒音計や音の強さの単位（dB）、自分や友達の声の大きさ等を知ることを目的とした「大声大会」、スマートフォン、携帯ゲーム機等の多種多様なメディアが身近な児童に、消費欲求が掻き立てられる仕組みについての理解を促すため、ソーシャルゲームを題材とした「スマートフォンでゲームのつかいかたを考えよう！」の3つの活動プログラムを開発し、放課後児童クラブで実践しました。

今後、活動プログラムの種類を増やすとともに、様々な場所で実践でき、実践者の工夫も反映できるように発展させていきたいと考えます。

成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

①地域の放課後児童クラブや子どもたちが集まる場所で、活動プログラムを実践します。子どもたちの遊びや活動をより豊かにするとともに、住教育や消費者教育、情報教育など学習の要素を加えることができます。「スマートフォンでゲームのつかいかたを考えよう！」の一部は小学校・中学校の授業でも援用することができます。

②本プロジェクトで開発した活動プログラムを、学校教員向けの研修や、大学講義における実践につなげ、学校教育に求められる住教育や消費者教育・情報教育のあり方を提示するために活用していきたいと考えます。

③放課後児童クラブの施設計画において、放課後児童クラブを通常の自由遊びだけでなく、多様な活動の場としても機能するよう検討するための基礎資料として活用できます。

このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成27年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト

プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

家政教育講座・教授・鈴木佐代
研究総括・「生活と音」プログラムの開発
家政教育講座・講師・奥谷めぐみ
「生活とおかね・あそび」プログラムの開発

（研究協力ー「生活と音」プログラムの開発）
大分大学大学院・客員研究員・豊増美喜
福岡教育大学・非常勤講師・秋武由子